

## マーフィアと都市

### 一

南部と北部とのコントラストに関して、イタリアは、経済的あるいは社会的意味での二元的発展の典型として、しばしば引合に出されてきた。十九世紀後半のフランケッティ (Franchetti, L.) やソニンノー (Sonniño, S.) などの啓蒙的自由主義者にはじまって、フォルトゥナート (Fortunato, G.) などの南部主義者を経て、今世紀に入ってから一九六〇年代前半頃までの南部論者<sup>イタリイオオリスタ</sup>にいたるまで、そこに一貫してあったのは、南部の後進性を南部の特異性、北部に対する異質性との関連で、理解する、より積極的には、経済的後進性と社会的特異性とを統一的に把握し

## 竹内啓一

ようとする立場であったと言うことができよう。

第二次大戦後の南部問題を、基本的に、南部経済の、そして南部社会の、イタリア国民経済への、そして、イタリア国民国家への資本主義統合にともなう問題として捉えなおしたのは、一九七〇年代になってからの論者、とくに、ベヴィラックア (Bevilacqua, 1972) やカペチエラトロなど (Capecelatro e Carlo, 1972) の著作であった。イタリアの当時の若い論者のみでなく、外国人研究者(たとえば Schneider, J. and P. Schneider, 1976)によっても、一九七〇年代になって、南伊問題に関しての二重経済論あるいは二重社会論に対する批判が出されるようになったのには、理論的側面において、「中心・周辺理論」、「世界経済論」などの一連の第三世界論の――

ときには安易に過ぎる適用をもふくめて——影響があったことは明らかである。しかし、同時に、他方では、一九六〇年代末頃から、南部社会の変貌とそれにもなう南部問題の変質<sup>(2)</sup>があったことにも注目しなければならぬ。すなわち、一九五〇年以降、中央政府による南部開発への介入が本格化して、南部においてなされた莫大な公共投資の波及効果のかなりの部分が北部産業資本によって吸収されるという国民経済内のメカニズムが定着し、同時に、労働力移動（一九五〇年代から七〇年代初頭までの南部、とくに農山村からの流出、以降は南部への人口還流による南部都市人口の急増）と全国的規模での「官僚機構の南部化」とによる南北の社会的隔絶性の大幅な減少がみられようになったことなどがそれである。

南部の都市、とくにナポリをはじめとする大都市が、コムーネの伝統の欠如、近世における寄生化と都市計画における啓蒙主義的契機の欠落など、北部および中部都市と異なった歴史的条件に由来するいくつかの特徴をもつことは、クローチェ (Croce, B.) の『ナポリ王国史』以来、多くの史家によって指摘されてきたことであるが、第二次大戦後の南部における都市化は、住宅問題

(Ginatempa, 1976)、『都市・農村関係あるいは都市網 (Caldo, e Santalucia, 1977 Italia, 1984, Marselli, 1984)』都市計画 (Vittorini, 1971, Caldo, 1979, Guarasi, 1981) さらには都市における政治過程 (Allum, 1973, Chubb, 1982) などに関して、南部都市の特色に対する新しい関心をひきおこし、多くの研究が発表されるようになった。そのような南部都市の特徴へのいくつかのアプローチの、ひとつの重要な結節点をなしているのが、マーフイアの現象<sup>(3)</sup>である。

脱工業社会（ポスト産業社会）において、第三次産業の比重が増大するのにつれて、公権力とくに税務当局が財貨・サービスの流れと蓄積の実態を十分に把握できなくなり、いわゆるアンダー・グラウンド経済部門の比重が増大してくるのは、イタリアでも一般的に認められていることであるが (Mingione, 1983)、『産業化の経験はほとんどもない——一九五〇年代末以降、イタリアの工業生産における南部の比重が増大したことはたしかであるが、それがしばしば「砂漠のなかのカテドラル<sup>(4)</sup>」というかたちで、産業都市の発達をうながすことなく進行したのも事実である——南部都市において、厳密な意味で

の「脱工業化」はありえない。第三次産業化は、産業構造の「高度化」というよりも、むしろ第三世界都市における都市的インヴォリューション<sup>(5)</sup>、インフォーマル・セクターの肥大化と共通する性格をもっていて、就業機会のインヴォリューション<sup>(6)</sup>のかつ内部拡大的増大のメカニズム、あるいはそのような経済活動のかんりの部分をインフォーマルなものにする役割を、まずマーフィアの現象がはたしている。次に都市政策の意志決定過程に介入する保護被保護関係<sup>(6)</sup>、あるいは公的・透明的関係の私人化、不透明化は、行政機構の政党化<sup>(6)</sup>に助けられてはいるが、それ自体、マーフィアの現象の行政機構への浸透にはかならない。第三に、違法建築、公共住宅や公共用地（道路など）の不法占拠や不法利用というようなかたちで、暴力を背景にした都市過程が日常的に進行し、それらが事後的に、当局というもうひとつの暴力によって合法化されるという仕方、都市形態がたちづくられていく点に、はっきりとマーフィアの契機<sup>(6)</sup>の介入がみられるのである。

第二次大戦後、伝統的マーフィア——ヘスによって見事に描き出され（Hess, 1970）、フェラロッティにより

「祖父のマーフィア」(mafia di nonno) と呼ばれた（Ferrarotti, 1978）もの——が、農村における活動の基盤を失い、都市における仲介者としての役割も国家権力によって徐々に蚕食されていって単なる犯罪組織に転落していった危機の時代を経て、寄生者でなく積極的な企業者に、仲介者でなく権力の主体に転化していった<sup>(7)</sup>のは、さきに指摘した南部問題そのものの変質に対応しているのである。南部内部での新しい矛盾として顕在化している階層のおよび地域的二極化傾向との関連でいえば、マーフィアの現象を南部の経済的後進性の産物とみる考え方（たとえば Sylos Labini, 1966）<sup>(8)</sup>、あるいは、前世紀のフランケッティ、ソンニノにはじまり、南部主義者のコラヤンニ（Colajanni, N.）の頃から主張されていたマーフィアの現象が南部の社会的および経済的發展を阻害するという古くからの議論（現代においては、たとえば Dalla Chiesa, N. 1976）は、もはやそのまゝでは通用しない。内陸部など、南部で最も貧しい地帯では、マーフィアの活動が成立する基盤すら失なわれているし、他方では、合法のおよび非合法的、双方のチャンネルを通じて、現代のマーフィアの活動は地域経済に裨

益するという側面をもつことを無視することはできない。同時に、マフィアの活動の空間的スケールはますます拡大する傾向にあって、ヨーロッパ諸国や新大陸にまで及んでいるし、マフィアの活動に由来する資産の運用ということになれば、マフィアそのものがフットルースなものになってきているのである。

(1) 南伊問題の思想的展開に関して筆者は、基本的に、一九六〇年代におこなった考察における立場を変えていないので、ここでは再論しない。くわしくは、竹内啓一(一九六一、一九六七)による。

(2) 南部問題の性格の歴史的变化は竹内啓一(一九七九)においてあつたが、そこにおいても、一九七〇年代になって、「南部ブルジョアジー」の性格は、大土地所有者＝農業寄生ブルジョアジーという性格をなくして、行政・官僚機構に寄生するいわば国家ブルジョアジー(*borgesia di Stato*)になった」ことを指摘しておいた。

(3) *fenomeno della mafia* という言葉が何時から用いられるようになったかということ、筆者は正確にたどることはできないが、共和国になってから最初の議会調査委員会が一九六二年に作られたとき、その正式名称は、すでに *La Commissione parlamentare d'inchiesta sul fenomeno della mafia in Sicilia* であった。ここでマフィアという言葉が、シチリア固有の組織ないし現象として理解

されていたかどうかは、この議会委員会が「シチリアのマフィア現象」を調査対象にしていたのではっきりしない。しかし、一九六五年五月三十一日の「マフィアに対する措置」と題された法律五七五号において「マフィア」という言葉は、「マフィアの結社」(*associazioni mafiose*)という言葉と同様に、シチリアのものに特定されない寄生的あるいは隠匿的組織・活動を一般を含蓄していた。さらに、第九国会において一九八二年九月に設けられた議会調査委員会は *La Commissione parlamentare sul fenomeno della mafia* と称し、マフィアの名のもとにカモラ、ヌランゲータなど、南部のあらゆる秘密結社をはっきりとその調査対象にした。(Barrese, 1986)

(4) 南部における工業設備投資あるいは工業生産の全イタリアに占める比重の増大に大きく貢献したのが、IRI、ENI系列の国家資本企業であり、新設された工場設備は資本集約的な装置産業で、雇用効果や関連効果の小さいものが多かったという意味で、*cattedrale nel deserto* という言葉が用いられている。詳しくは竹内啓一(一九七九)を参照。

(5) *urban involution* については竹内啓一(一九七六)において論じた。

(6) *partitizzazione* といわれる現象は、半官的組織を含めて、行政機構、公企業組織の主要なポストが与党政党の利権と取引の対象になる政党政治の弊害のことである。イ

タリアでは、中央、地方ともに、中道左派のほとんどの政党が（いくつかの地方自治体においては共產党をも含めて）与党化した一九七〇年代になってから、この現象が顕著になった。

(6) ここで保護＝被保護関係とは、グラツィアーノの規定に *patron-clientelismo*: (Graziano, 1978, 1984) 'チェブのいう *patron-client relationship* (Chubb, 1982) のことである。それは、基本的には、特定の個人への権力の累積的蓄積をともなう資源再配分の一形態であるが、イタリアのコンテキストにおいて *patron* のはたす役割は、公権力と大衆との間の仲介を主とするものである。

(7) 第二次大戦後、すくなくとも一九六〇年代前半までのマーフィアの状況を、危機の局面として把握するのは、一九六〇年代後半から、とくに一九七〇年代の南部都市の建築ブームと麻薬産業の隆盛との対比で、一九八〇年になってから、アルラッキ (Arlacchi, 1983) やチェントリーノ (Centino, 1983, 1986) によってなされるようになったことである。書かれた時期の現実によって制約されていたとはいえ、竹内啓一（一九六二）は「祖父のマーフィア」しか視野に入れないなかったし、竹内啓一（一九七一）は、第二次大戦後の危機の局面のマーフィアまでしか見ていなかったことを反省している。「新しいマーフィア」という用語は、危機の局面にあったマーフィアに対しても用いられていたが、現在におけるマーフィアの本質、そしてマーフ

ィア研究の状況からして、一九七〇年以降のマーフィアに対してこそ用いられるべきであると考ええる。日本語の文献としては、竹山博英（一九八五、初出は一九八三）が、「新しいマーフィア」の実態を良く報告している。寄生的存在ではなく企業者となったマーフィア、仲介者でなく権力の主体として、国家権力、地方権力と対決するようになったマーフィアを、マーフィアの変質であるとともに、「本来の自分から離れ」「ジレンマにぶつかった」ものとしてこの著者は理解している。

## 二

マーフィアという言葉を、歴史的な、シチリア西北部の農村地帯に、すくなくとも前世紀前半にはすでに存在していた秘密結社に限定して用いるのは、現代のマーフィアを考察するには適当でなく、むしろ普通名詞化して用いる必要があるというのは、普通名詞としてのマーフィアが一般化したからとか、議会調査委員会が普通名詞化して用いられるようになったからとかいうような、用語上の理由によるのではない。すくなくとも第二次大戦後の西北シチリアに、もはや単一の秘密結社としてのマーフィアなるものが存在しなかったことは、トンマー

ゾ・ブッシュェッタの告白からも明らかである。<sup>(9)</sup> 他方、ナポリのカモラをはじめとする多くの組織が、バレルモ、コレオオーネなどシチリア西北部の諸組織と密接な関係をもつようになったのも事実であるが、それ以上に重要なことは、マーフィアというのは、結社や組織である前に、行動様式であり文化あるいは価値観であって、南部の、主として都市的諸活動と都市・農村関係の分野に、共通の行動様式に由来する諸現象が見出されるということである。資源配分における保護・被保護関係の重視、暴力的契機の介入、つくり出される組織の閉鎖性と機密性などは、シチリアの古典的マーフィアを継承する性格である。さらに、特定の組織に属する人間でなくても、一般市民が、たとえば市役所の通常のサービスを受けるのに、誰か役所内の人物への紹介が必要であると考えてそのようなコネをつけ、コネなしでは一週間は待たされる書類を一日で作ってもらったとすれば、市民自身が、「ラコマンダツィオーネ(紹介)文化」という文化としてのマーフィアの一要素にどっぷりとつかっていることになる。もうひとつ例をあげれば、バレルモの公共住宅(case popolari)で、最近二五年間に、登録されている

リストからの抽籤によるという正規の手続きを経て入居したのは、全入居者の一〇パーセントにも満たない。入居者の大部分は然るべき人物からのラコマンダツィオーネによるか、さもなければ、不法に、鍵の破壊というような暴力をとまなげて入居し、事後的に、所得額など入居条件を満たしているために入居が認められた家族である。<sup>(10)</sup> これも、バレルモの大衆のなかにマーフィアの行動様式が強く根をおろしていることを示すものである。チュブが、すくなくとも一九七〇年代には一般的であったとして報告しているような、総選挙にさいしてのバスタのばらまきによる票集めをマーフィア的組織が請負っている事実(Cinibb, 1982)を、筆者は、一九八〇年代の選挙に立候補した当事者の口からも聞くことができた。

他方「新しいマーフィア」といわれる所以として、古典的マーフィアとも、危機の局面あるいは移行期にあったマーフィアとも相違するいくつかの性格を、現代の普通名詞化したマーフィアはもっている。そのひとつとして、かつて「名誉ある結社(onorata società)」と呼ばれていた時代にあったさまざまな掟が、現代のマーフィアにあってはすたれてしまったということがしばしば言

われているし、トンマーズ・ブシェックの告白の内容から、また彼が告白したこと自体、古典的マーフィアにとっては最も重要な掟であった「口を割らないこと」(Omertà)に背くことであったことから、そのような傾向を類推することはができる。しかし、他方では、シチリアにおける殺人件数、とくに大都市におけるマーフィア内あるいはマーフィア間の殺人件数が一九七〇年代に入って急増し、かつ迷宮入り件数の比率も増大しているということは、現代のマーフィアがその経済力、暴力にもとづく権力を強化するにつれて、掟がより厳格に執行されるようになったとの説明をも許すものである。マーフィア研究にあつては、参与調査が不可能なことは勿論のこと、信頼しうる情報の入手が一般に極めて困難であり、また、資料を批判的に検討するための手がかりをも欠く場合が多いので、現代のマーフィアにおいて、掟の内容およびその施行状態がどうなっているかというようなことは、明らかにすることはできない。

マーフィア権力が、必要とあらば公権力に挑戦するようになったことは、一九七〇年末から、反マーフィアの立場を明瞭にとる政治家、判事、行政官、ジャーナリス

トが次々に暗殺されるようになったことから明らかにある。一九八〇年のシチリア州首席マルタレッラ、一九八二年の共産党下院議員ラ・トッレとバレルモ県知事ダッラ・キエーザ、一九八三年のパレルモ県裁判所審部長キンニチの場合のように、公権力の中枢に位置する人物を殺すというようなことは、それまでのマーフィアの決してしないことだったのである。同時にマッタレッラの場合のように、キリスト教民主党のなか、さらには教会の内部においても、反マーフィアの立場を鮮明にする人たちが、少数ではあるがでてきたのも、新しい事態である。勿論、マーフィアと公権力との癒着は、財務、治安および司法当局による数多くの摘発にもかかわらず続いているし、その社会的基盤として、前近代的社会関係とイタリア的福祉国家における補助主義 (assistenzialismo) との奇妙な結合 (David, 1984) と、伝統的権力によるコントロールと制度化された官僚制によるコントロールとの見事な連接 (Centorino, 1986) との二つが指摘される。そしてこれが後述するマーフィアの経済を支える重要な柱になっていることはたしかであるが、マーフィアが、公権力と民衆との間に介在する、その意味

で寄生的であり、体制を否定するような危険な存在では決してなかった過去とちがって、現在のマーフィアが、その広範な活動分野と巨大な経済力によって、体制にとって危険な存在になったことが、体制内に反マーフィア分子をうみだしている点には注目する必要がある。

新しいマーフィアの最大の特徴は、その経済活動が、保護者としての分け前の要求(Blok, 1974)、その意味での寄生的なものから、生産、流通、不動産、金融業などの主体として、企業者のなものに、富の蓄積を目的とするものになったということである。アルラッキの『企業者のマーフィア』と題された著書(Arlacchi, 1983)のサブタイトルが『マーフィアの倫理と資本主義の精神』となっているのは、決して駄洒落ではなく、現代マーフィアの経済精神が、独特の様式での資本主義的蓄積を指向していることを論じようとしてのことなのである。

マーフィア経済の第二の特色は、それが合法面と非法面とおおっていて、かつその境界が明瞭でないことである。密輸、麻薬の仲継、ヘロインの精製などは、歴然たる非合法分野であり、またその経済的規模も非常に大きい。<sup>(13)</sup> 他方、運輸業、建設業、スーパーマーケットな

どで、マーフィア分子が活発な、しばしば排他的とさえ言える活動を展開しているが、これらの活動は大部分が合法的なものである。しかし、このような合法面の活動に非合法面からの資金の流入が金融機関を通じてなされてきたことは、すでに一九七六年の議会委員会報告で指摘されていたことであるし、一九六〇年代後半以来の銀行店舗数の増加率が、シチリアをはじめマーフィア的活動が顕著な州において異常に高いこともこのことを裏付けている。<sup>(14)</sup> 合法か非合法かの境界かはっきりしない例として、すべてではないがほとんどの南部都市において、建設途中で、いわばスケルトンだけが出来た段階で放置されている建築物が異常に多いことがあげられる。建築が途中で中断されたのは違法(abusivismo)の通告を行政当局から受けたからであるが、多くのスケルトンは、一定期間(一年から数年)醜態をさらした後、正式に認可されて建築が再開され、完成されてアパートになる。

シチリアでは一九八五年の追認(sanatoria)州法によって、一九八三年までの違法建築はほとんどすべてが合法化された。これは明らかに、連立五与党の地方選挙目当ての立法であった。<sup>(15)</sup>

アルラッキ (Arlacchi, 1983) は、マーフィアの資本蓄積を可能にするものとして、マーフィアの企業が他の企業に対しても競争上の優位性<sup>(16)</sup>を三点にまとめている。

第一に、マーフィアの企業が、縁故関係や暴力を背景にしたプレッシャーをかけることにより、他の企業に対して、流通面において絶対的優位を占めうる事が指摘される。すなわち資材、原料の購入、講負契約、出荷に関して、他の企業と比較して、優利な立場に立つことはあっても、不利な立場に立つことは決してないのである。

第二にマーフィアの企業は、人件費を相対的に低くおさえる傾向がある。それは社会保障費の雇傭者負担分の支払義務に違反したり、時間外手当の不支払い、さらには闇契約による雇傭などのかたちでなされる。そして、そのようなことを可能にしているのが、労資関係にも浸透するマーフィア的社会関係なのである。第三の利点としてアルラッキが指摘するのは、非合法的活動による蓄積と金融業者との癒着<sup>(17)</sup>を通じて、着実かつ豊富に資金調達ができるということである。パレルモ、アグリジエントなどのシチリアの主要都市において、石油危機後のイタリア経済の景気が最も冷えきっていた一九七〇年代に空

前の建築ブームが現出したのは、このような資金源なしにはまったく説明できないことである。

チェントリーノも指摘していることであるが (Centorriño, 1983)、シチリアにアルラッキ・モデルを適用した場合、マーフィアの都市経済の特色として、さらにいくつかの属性をつけ加えなければならない。そのうちでも、特に重要なのは、危機の局面あるいは移行期のマーフィアからの遺産である行政当局との癒着と、それと密接に関連するものとして、南部開発の名のもとに南部で費消される巨額の公共資金への寄生である。次に、パレルモ市の具体的事例について、このことをみてみることにする。

(8) マーフィアの起源(歴史についての文献は多いが、竹内啓一(一九六二)で若干の考察をしたので、それ以後の重要な文献として) Romano, 1963, Tironi, 1964, Hess 1970, Falzone, 1974, Minna 1984, Renda, 1984, 1985 をあげるのにとめておく。

(9) 「リオの男」ことトンマーズ・ブッシュタについて は、Calvi, 1986 に経緯が詳しく述べられているし、パレルモで、ジョヴァンニ・アッバーテ他七〇六名を被告にして進行中の多数裁判 (Maxiprocesso) の、一九八五年十一

月の予審判事調書 (Stajano, 1986) は、非常に多くの部分をブッシュタ告白に負っている。

(10) *L'Orca* 一九七八年七月二二日の記事およびバレルモにおける複数の人たち (Istituto Case Popolari) の担当官をよくむ) からの聞き取りによる。

(11) キンニーチ (Chinnici, 1983) は中央統計局 (ISTAT) のデータを分析して、このような結論を導き出している。

(12) 教会とマールフィアの問題については、デデスキによる大胆な告発 (Fedeschi, 1983) この報告が会議で読まれたのは一九八一年である) があるし、教皇ヨハネス・パウロ二世は、一九八一年一月二日、*Il Giornale di Sicilia* に掲載された同新聞へのインタヴューにおいて、はっきりと反マールフィアの立場を表明した。さらにバレルモ大司教バッパラルド (Pappalardo, S.) は、一九八三年ダッラ・キエーザ將軍の葬儀の説教において、ティトッス・リウィウスを引用しながら、反マールフィアのための連帯を訴えた (Masini, 1984)。一九八五年、教皇が、『カトリック文化』 (*Cultura Cattolica*) の編集長として活躍していたソルジェ (Sorge, B.) 神父をバレルモにおける社会事業の責任者として転出させたのも、ヴァチカンがシチリアにおける社会教育を重視している証左と見做すことができる。

(13) それがインフォーマルあるいは非合法なものであるが故に、その取引高については、種々の推測がなされていて確認する手だてではない。Centorino 1986 は、一九八〇

年代初頭に摘発されたものから類推して、シチリアにおけるヘロイン精製だけで年間三兆から四兆リラ (五〇〇〇億から六〇〇〇億円) に達したと推定している。これはシチリアの州予算のほぼ二倍、イタリアのGNPの1%以上に相当する。

(14) 一九六三年から二〇年間の銀行店舗数の増加率が全国平均二四・二%に対して、シチリアで三五・四%というのは、他の経済指標と比較して不自然である (Centorino, 1986)。また、預金商の増加率が一九七六―八〇年の間、八〇年価格に換算して、シチリアで一三〇%、(ラツィオで一〇六%、ピエモンテで一二五%) というのは、所得統計の数値などからはどうしても説明できず、インフォーマル・セクターからの資金の流入を考えざるをえない。(Cacciola, 1984)

(15) *Giornale di Sicilia* 一九八五年五月二四日の記事による。

(16) 用語上の問題として、マールフィア的企業は経済外的手段によって、市場における競争原理を否定しようとする傾向をもつのであるから、「競争上の利点 (vantaggi competitivi)」などと言うのはおかしいのであるが、「ここではアルラッキの用語をそのまま用いておく。

(17) 最も象徴的な事件は、まだ謎につつまれている部分が多いが、マールフィアの資金の運用にあたっていたことがたしかなミラノのアンプロジアナ銀行の破産であろう。シン

ドーナ (Sindona, R) の合衆国における逮捕、ロンドンで死体がテムズ川の橋にぶらさがっていたカルヴィ (Calvi, M) というように、この事件の舞台は国際的である。この事件については、多くのジャーナリスティックな文献があるが、この文は Pizzesi e Bonsanti, 1984 だけをあげておく。

### 三

第二次大戦後の、キリスト教民主党政権ファアンファニー派によって牛耳られてきたバレルモ市における政治過程については、チュップによって詳細な研究がすでになされている (Chubb, 1982)。リマ市長やチンチミノー市長に代表されるような市当局とマーフィアの権力の一九五〇年代および六〇年代における結びつきは、一九八〇年代に入ってから事態の進展のなかで、ますます動かしがたい事実になった。一九七五年にキリスト教民主党政権の単独支配が終わり三党連立市政になってからも、歴史的都市部の整備、衛生・公共交通などの基盤整備などの長年の課題が放置され、困難が累積されたことから、市当局とマーフィア権力との癒着という市政の構造に基本的な変化がなかったことは明らかである。<sup>(18)</sup> 一九八五年に、

社会党をもふくむ五党連立のもとに成立したオルランド市政については、まだ評価を下せる段階にないが、社会党が与党になることによって何かが変るなどと考えることができないのは、一九七五年以来、社会党と共産党とによる左翼市政をもったナポリで、縁故主義と汚職とによって市政が腐敗したうえ、市財政はまったく破産し、一九八六年には市執行部の不在という事態を招いた例からも明らかである。

バレルモにおいてマーフィアの企業がまず建築、建設業に大量に進出したのは一九六〇年代のことであり、この意味でバレルモは新しいマーフィアの形成が最も早い都市であったと言える。ナポリにおいても一九六〇年代に住宅建設のブームがあったが、ナポリでは、一九六〇年代にカモッラが企業者として住宅建設に進出することはなかった。バレルモの建設ブームにとって重要な契機をなしたのは、まず一九五九年に市によって決定され、一九六二年にシチリア州議会でも認められた都市計画マスタープラン (Piano regolatore comunale generale) である。第二には一九五〇年代末から本格化した政府の南部開発のための直接介入である。後者について

言えば、一九六〇年はじめまでは、たとえばロッカメーナのダム建設を執拗に妨害したマーフィア的組織のよう<sup>(19)</sup>に、当初、マーフィアは、開発が仲介者としての自分たちの既得権益を犯すことになるので、南部開発政策に反対する立場をとることが多かった。しかし公共土木事業への就業機会の仲介などを通じて、次第に開発事業に寄生するようになり、さらに一九六〇年代末になると、建設、運輸などの事業主として、直接、開発の事業を請負うようになったのである。

一九五九年にバレルモ市議会で採択されたバレルモ市のマスター・プランは、一九三九年のバレルモ市のマスター・プラン・コンクール応募作の理念を継承するものであった。<sup>(20)</sup>さらに、コンクール当時の基本的方針は、十九世紀中葉以来のバレルモの北方への発展方向(D. S. Seld 1981)を継承し、それに、新たに西方向への発展を加えるものであった。西方向への発展は、モンレアールとの結びつき、およびその他の内陸にあってバレルモの後背地をなしている多くの村落への道路網の存在を考えれば当然の発展方向であったとも言える。

このマスター・プランは、このようにして、一見バレル

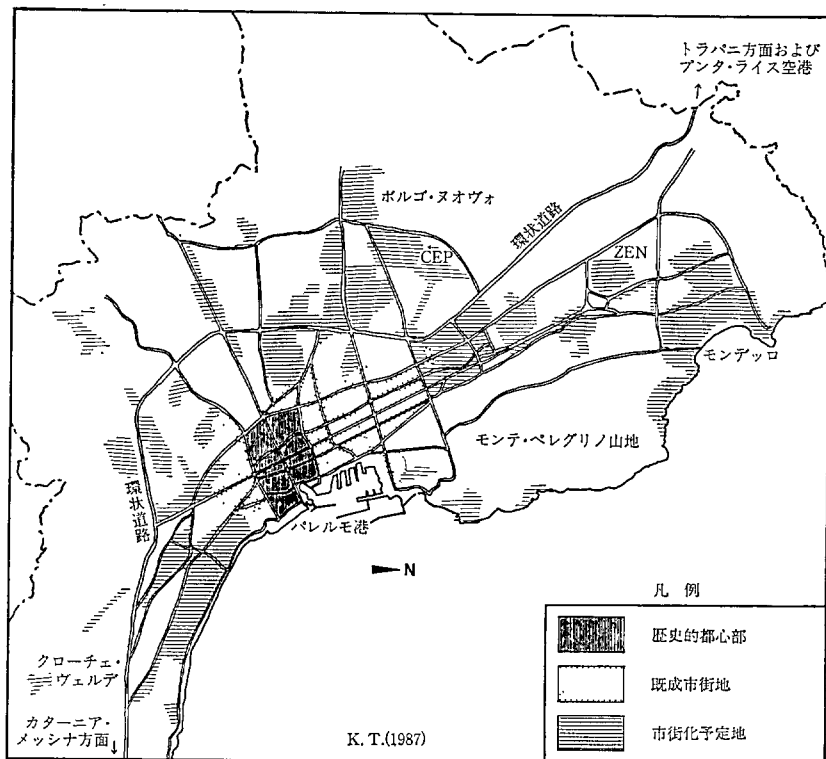
モの歴史的背景をふまえ、将来の発展方向を合理的に展望したものであるかに考えられるが、一九五〇年代末から六〇年代はじめのバレルモの都市化の状態との関連でこのマスター・プランを検討し、さらにマスター・プランにもとづいて、市街地が実際にどのように形成されていったかをみると、いくつかの問題点が明らかになってくる。

一九五〇年、このマスター・プランが議論されはじめた頃のバレルモ市の人口は約五〇・〇万、そのうち一二・六万人が歴史的都心部に住んでいた。この都心部の基本的構造は十六世紀、スペイン統治時代に壁に囲まれた都市としてできあがったもので、道路網はほとんどそれ以前のアラブ都市としての迷路状のものである。十七世紀、ポルタ・ヌオヴァから旧港までの東西軸と南北軸のマケダ通りが開かれて、富裕階層はこの大通りに面した新しい宮殿に住むようになった。このようにして、建物の下に下層階層、上に上層が住むという垂直的階層間住み分けが水平的なものに変化したのである。十九世紀後半になってマケダ通りの北方への延長としてリベルタ通りが建設されはじめると、今度は、この新しい北部市

(25) マーフィアと都市

パレルモ市マスタープランの概略図 (1959年市議会採択, 1962年シチリア州議会承認)

縮尺 1: 166,700 (1cm=1667m)



街地に高所得者階層が集まるようになった。このようにして、パレルモでは、社会的上層が、常に都心部の古い地区を放棄して新しいお屋敷町を形成するという住み分け構造が歴史的に存在していたのである。一九五九年の時点で市街化予定地とされていた部分の面積は、略図を見ても明らかのように既成市街地のそれよりも大きかったが、このうち旧市街地の北に接する部分は、このようなパレルモの発展傾向から、新しいお屋敷町の形成にあてられることは明らかであったし、一九五〇年代には、すでにそのような方向での住宅建設と不動産投機が開始されていたのである。

工業地区は既成市街地の南に接した部分と既成市街地の西側を通

る環状道路 (Tangenziale) 沿いに小規模なものが見込まれただけで、工業都市としての発達は、一九五〇年代において、すでにもう考えられていなかったわけである。略図において白地になっている部分は、軍用地、小型飛行機用の空港、農事試験場、モンテ・ペレグリノ山地の岩山を別にすれば、大部分が農業・緑地帯 (zona verde-agricola) に指定された。パレルモ市は、「黄金の盆地」(Conca d'Oro) と呼ばれる果樹栽培を主とする豊かな農業地帯の中心に位置し、この農業・緑地帯に指定された部分は、「黄金の盆地」における柑橘類の主産地だったのである。注目しておかなければならないのは、この農業緑地帯においても、一平方メートルあたり〇・二〇立方メートルまでの建築が認められていたことである。<sup>(21)</sup> さらに、建造物の容積は床面積と最も低い壁の高さの積と規定されているので、傾斜の大きい屋根をつけて広い屋根裏部屋を作っても、その部分は容積計算に入らないことになる。

実際に市街地予定地がどのように開発されていたかをみると、一九五六年に、すでに市域の西端に、低所得者用公共住宅団地ボルゴ・ヌオーヴォ (二・五万人分)

の建設が開始され、さらにそれに接した C E P (Centro di Edilizia Programmata 計画建築センター)、市の北部に Z E N (Zona Espansione Nord 北部拡張地帯) にも同様の団地を作るための準備が開始されていた。<sup>(22)</sup> 既成市街地からはるかに離れた場所に公共住宅団地をまず開発し、それにとまなう道路などの整備によって、都心部により近い市街地予定地区の不動産価格の上昇をはかり、民間の不動産投機者を大いにうるおすという図式が見事に実現されたのである。新しい高級住宅地ストラスブルゴ通りなどが出現し、マスター・プランによる市街地予定地は、一九七〇年代にアパート群によってみたされた。同時に農業・緑地帯においては、広い屋根裏部屋を確保するためのとんがり屋根の一戸建て住宅がどんどん建ち、オレンジ・レモン畑は、市の南のはずれにわずかに残っているだけで、「黄金の盆地」はパレルモでは違法建築なしに「セメントの盆地」になってしまった。この過程において、土地・建物の売買、住宅の建設に関与した業者のなかには、グレコ一族をはじめ、現在獄中にある者、裁判中の者、すでに暗殺された者、あるいは口封じのために消されないよう治安当局の保護をうけている者の名

前を、多数見出すことができるのである。<sup>(23)</sup>

現在のバレルモの人口は七一・五万人である。一戸建て住宅地区をふくめればバレルモの市街地は一九五〇年代のその数の数倍になっているのに、人口の増加率はこの間に約四〇％にすぎない。中流、上流階級の平均的住宅面積が大きくなったこともあるが、歴史的都心部をはじめ、旧市街地における人口の減少が注目される。一九八〇年における歴史的都心部の人口は三・一万人で、三〇年間に人口が四分の一以下になったことになる。これは再開発がなされたりしたことによるのではなく、第二次大戦後、都心部では、爆撃された宮殿の修理も、歴史的建造物を保存しながらの再開発も、皆無と言ってよいほどなされていない。一九六八年の地震以来、自然崩壊する建物も増え、現在の住民は外国（ソマリアなど）からの移民や最近内陸部から移住して来た人々たちであって、古くからの住民は皆郊外の住宅地に移ってしまっている。都心部の住民が、相対的に貧困化するというバレルモの住み分け構造は、一九六二年のマスター・プラン実施後も、ますます明瞭になってきているのである。歴史的都心部の住民の貧困化のみでなく、既成市街地の道路の拡

幅、駐車場の整備、都心と郊外を結ぶ公共交通機関の整備なども非常におくれ、公共事業はもっぱら郊外の、とくに高・中所得者むけの住宅地のためになされてきたと言っている。<sup>(24)</sup>

新しい動きとして、現在シチリア州議会で、歴史的街区の再開発に、民間資本の参加を可能にする法律が審議されている。民主主義的コントロールさえ保障されていれば、公益的事業に民間資本が参加するのは差支えないという議論があるが、問題は南部都市において、現在、民主主義的コントロールが保障されているかどうかということであろう。バレルモの場合、「黄金の盆地」を「セメントの盆地」に変えてしない、周囲の岩山にぶつかってもう市街地化のスペースがなくなってしまった段階で、マーフィアの企業が、今まで放置してきた都心部の再開発を、新しい第三次産業用の空間需要を見こしての投機と、公共投資による外部経済の内面化という観点から新しいターゲットにする危険もあるのである。

(18) 一九八〇年から三年間市長のポストにあったマルテッ  
ルッチ (Martellucci, N.) が、反マーフィアキャンペーンに  
積極的だったダッラ・キエーザ知事に対して非協力的だっ

たのは周知の事実である。

(19) この事件は作家ダニロ・ドルチの告発によって有名になった。(Dolci, 1960. Barbara, 1964. Abbadessa, 1983)

(20) 第二次世界大戦に突入したため、一九三九年のコンクールは特定の入賞プランを決定することはなかったが、一九四四年、バレルモ市当局はこのコンクールに応募した四人の建築家を委員にして戦後の復興計画および新しい都市計画の策定にあたり、その作業の延長上に一九五九年都市計画ができたのであった。(Inzerillo, 1981, 1984)

(21) 一九八〇年代になって、この基準はシチリア州法により〇・〇二五立方米にまでひきさげられた。農家および農業建物の新增築ならこの基準で十分である。

(22) どうしてこの部分の土地が公共用住宅用地として買収されることになったかという点でも興味ぶかい問題点があるのであるが、ここではこの問題には立ち入らない。

(23) 彼らが逮捕されたのは、当然のことながら合法的な不動産投機や建設業によってではなく、殺人や麻薬の取引によってである。ここにも、現代マフィアの経済活動が合法、非合法の双方にまたがっている例をみることができる。

(24) ボルゴ・ヌオーヴォ、CEP、ZENなどの Istituto Case Popolari による低所得階層向けの公共住宅団地は、計画そのものは、緑地、さまざまな公共用地を予定した模範的なもので、郊外住宅団地計画のモデルとして建築雑誌に多く紹介されたほどであるが、実現はつまみ食いの的に、

住宅についてのみなされ、緑地も公共施設も極端に欠くゲットーを結果した。

#### 四

外国人の研究者として、われわれがイタリアの都市を変革する立場にないことは言うまでもない。都市政策のありかたを良いとか悪いとか言うこともできないであろう。しかし、イタリアの、とくに南部の都市過程、都市形態を分析し、理解しようとするとき、都市の住民の行動様式あるいは文化としてのマフィアが、ひとつの重要な側面になることはたしかである。第二次大戦後南部のイタリア国民国家への、そしてイタリア国民経済への統合が完了するなかで、南部社会は大きく変化したし、南部の都市生活も大きな変質をとげた。同時に、南部の都市生活が、新しい現象形態をとりつつも、「マフィア的」と呼ばれうる本質を残しているのは、南部社会、南部経済と文化としてのマフィアの相互規定関係が依然として強固であることを示している。しかし、本稿でみたように、南部社会、南部経済の現実はずえに変化しているし、さまざま社会的、思想的立場の人たちが、反

マフィア的態度を明確にし、いわば文化革命の必要を痛感するものになっていくことを事実である。このことは、マフィアの本質が不変なものではなく、また未来永劫に残るものでないことをはっきりと物語っているのである。

## 文献

- Abbadessa, G. *Mafia e acqua*. Di Bella, S. (a cura di) *Mafia e politica. Società civile, organizzazione mafiosa ed esercizio dei poteri nel Mezzogiorno contemporaneo*. Vol. II. Rubettino, Severia M. (CZ) 1983
- Ajroli, C. (a cura di) *La borgate di Palermo*. Salvatore Sciascia Editore, Caltanissetta-Roma 1984
- Allun, P. *Politics and Society in Post-War Naples*. Cambridge Univ. Press, 1973 (*Potere e società a Napoli nel dopoguerra*. Einaudi, Torino 1973)
- Alongi, G. *La mafia*. Sellerio Editore, Palermo 1977
- Arlacchi, P. *Mafia, contadini e latifondo nella Calabria tradizionale*. Il Mulino, Bologna 1980 (*Mafia, Peasants and Great Estates. Society in Traditional Calabria*. Cambridge Univ. Press, 1983)
- Arlacchi, P. *La mafia imprenditrice. L'etica mafiosa e lo spirito del capitalismo*. Il Mulino, Bologna 1983
- Barbora, L. *La diga di Roccamena*. Laterza, Bari 1964
- Barrère, O. (a cura di) *Relatione della Commissione Parlamentare sul fenomeno della mafia*. Rubettino Editore, Severia M. (CZ) 1986
- Bevilacqua, P. *Critica dell'ideologia meridionalistica*. Marsilio, Padova 1972
- Blok, A. *The Mafia of a Sicilian Village, 1860—1960. A Study of Violent Peasant Entrepreneurs*. Basil Blackwell, Oxford 1974
- Boissevain, J. *Friends of Friends. Networks. Manipulations and Coalitions*. Basil Blackwell, Oxford 1974
- Borré, G. e L. Pepino (a cura di) *Mafia 'ndanghela e camorra. Analisi politica e intervento giudiziario*. Franco Angeli, Milano 1983
- Gacciola, R. Il sistema economico siciliano: una lettura degli indicatori ufficiali. Centorrio, M. ed E. Sgroi (a cura di) *Economia e potere mafioso in Sicilia*. Giuffrè, Milano 1984
- Cafaro, S. *Sviluppo industriale e questione urbana nel Mezzogiorno*. SVIMEZ-Giuffrè, Roma-Milano 1976
- Calderaro, C. ed E. Sgroi, Imprenditorialità, localismo, marginalità: Storie di piccoli imprenditori industriali. Centorrio, M. ed E. Sgroi (a cura di) *Economia e potere mafioso in Sicilia*. Giuffrè, Milano 1984

- Caldo, C. e F. Santalucia *La città meridionale*. La Nuova Italia Editrice, Firenze 1977
- Caldo, C. Lo sviluppo urbano di Palermo e il contesto regionale. Caldo C. et al. *Città e territorio in Sicilia Occidentale*. Renzo Mazzone, Palermo 1979
- Calvi, F. *La vie quotidienne de la mafia. de 1950 à nos jours*. Hachette, Paris 1986
- Cambell, J. K. *Honor, Family and Patronage*. Oxford Univ. Press 1964
- Capececiatro, E. M. e A. Carlo *Contro la "questione meridionale"*. Samonà e Savelli, Roma 1972
- Centorrino, M. L' "altra" economia, Centorrino, M. ed E. Sgroi (a cura di) *Economia e potere mafioso in Sicilia*. Giuffrè, Milano 1984
- Centorrino, M. ed E. Sgroi (a cura di) *Economia e potere mafioso in Sicilia. Tipologie imprenditoriali, integrative sociale e processi di accumulazione*. A. Giuffrè Editore, Milano 1984
- Centorrino, M. *L'economia mafiosa*. Rubbettino Editore, Severia M. (CZ) 1986
- Chinnici, G. L'omertà nella società urbano-capitalistica. Di Bella, S. (a cura di) *Mafia e politica. Società civile, organizzazione mafiosa ed esercizio dei poteri nel Mezzogiorno contemporaneo*. Vol. II. Rebettino, Severia M. (CZ) 1983
- Chubb, J. *Patronage, Power and Poverty in Southern Italy. A Tale of Two Cities*. Cambridge Univ. Press, 1982
- Consiglio, A. (a cura di) *Dossier mafia* (Relazione della Commissione parlamentare d'inchiesta sul fenomeno della mafia in Sicilia, ricostituita il 4 ottobre 1968). I. P. C., Roma 1972
- Cusimano, G. Lo "spazio" del commerciante nel centro storico di Palermo. Caldo, C. e V. Guarraisi (a cura di) *Qualità della vita e spazi urbani*. Le edizioni dell'art. 9, Palermo 1983
- Cutrerà, A. *La mafia e i mafiosi*. Reber, Palermo 1960
- D'Alessandro, E. *Briganaggio e mafia in Sicilia*. Casa Editrice G. D'Anna, Messina-Firenze 1959
- Dalla Chiesa, N. *Il potere mafioso*. Mazzotta, Milano 1976
- Dalla Chiesa, N. Mafia, questione del potere e istituzione. Magistratura Democratica, *Mafia e istituzione*. Casa del Libro, Roma 1981
- Dalla Chiesa, N. et al. *Mafia vecchia, mafia nuova*. Franco Angeli, Milano 1985
- Damato, F. *L'ombra del generale. Diario di un servizio televisivo sulla mafia dopo Dalla Chiesa*. Sugar Edizioni, Milano 1983
- D'Aponte, T. Il Mezzogiorno degli anni ottanta di fronte

- ai processi di "deindustrializzazione" e di "terzializzazione" Leone, U. (a cura di) *Vecchi e nuovi termini della questione meridionale. Scritti in ricordo di Francesco Compagna*. Camera di Commercio, industria, artigianato e agricoltura di Napoli, 1984
- David, P. Il sistema assistenziale in Italia. Ascoli, U. (a cura di) *Welfare State all'italiana*. Laterza, Bari 1984
- De Seta, C. e L. Di Mauro, *Palermo* (Le città nella storia d'Italia) Laterza, Bari 1981
- Di Bella, (a cura di) S. *Mafia e potere. Società civile, organizzazione mafiosa ed esercizio dei poteri nel Mezzogiorno contemporaneo*. 3 voll. Rubbettino, Severia M. (CZ) 1983
- Di Bella, S. Accumulazione originaria, potere e violenza mafiosa: un contributo al dibattito. Di Bella, S. (a cura di) *Mafia e politica. Società civile, organizzazione mafiosa ed esercizio dei poteri nel Mezzogiorno contemporaneo*.
- Doglio, C. e L. Urbani, *La fonda sicula, Pismo dell'autonomia siciliana* Il Mulino, Bologna 1972
- Doglio, C. e L. Urbani, *Braccio di Bosco e l'organigramma*. S. F. Flaccovio Editore, Palermo 1984
- Dolci, D. *Spreco*. Einaudi, Torino 1960
- Falcone, G. *Histoire de la mafia*. Fayard, Paris 1973 (Storia della mafia S. F. Flaccovio, Palermo 1984)
- Farro, A. *Conflitti sociali e città. Napoli 1970—1980*. Franco Angeli, Milano 1986
- Ferrarotti, F. *Rapporto sulla mafia: da costume locale a problema dello sviluppo nazionale*. Liguri Editore, Napoli 1978
- Gelante, G. Cent'anni di mafia, Lo Cascio, G. et al. (a cura di) *L'immaginario mafioso. La rappresentazione sociale della mafia*. Edizioni Dedalo, Bari 1986
- Ginatempo, N. *La città del sud. Territorio e classi sociali*. Prefazione di Enzo Mingione. Mazzotta, Milano 1976
- Graziani, A. Economia sussidiata ed economia produttiva nel Mezzogiorno. Leone, U. (a cura di) *Vecchi e nuovi termini della questione meridionale. Scritti in ricordo di Francesco Compagna*. Camera di commercio, industria, artigianato e agricoltura di Napoli, 1984
- Graziano, L. Center-Periphery Relations and the Italian Crisis: The Problem of Clientelism. Tarrow, S. (ed) *Territorial Politics in Industrial Nations*. Praeger, New York 1978
- Graziano, L. *Clientelismo e sistema politico. Il caso della Italia*. Franco Angeli, Milano 1984
- Guarasi, V. *La condizione marginale*. Solerio Editore, Palermo 1978

- Guarrasi, V. *La produzione dello spazio urbano*. S. F. Flacovio Editore, Palermo 1981
- Hess, H. *Maifa. Zentrale Herrschaft und lokale Gegenmacht*. J. C. B. Mohr, Tübingen 1970 (*Maifa*, con una prefazione di Leonardo Sciascia, Laterza, Bari 1973)
- Hobsbawm, E. *Primitive Rebels*. Norton, New York 1959 (I ribelli, Forme primitive di rivolta sociale. Einaudi, Torino 1966)
- Inzerillo, S. M. *Urbanistica e società negli ultimi duecento anni a Palermo*. 1) *Piani e prassi amministrativa dell' "addizione" del Regalmici al concorso del 1939*. 2) *Crescita della città e politica amministrativa della "vibostruzione al piano del 1962*. Istituto di Urbanistica e Pianificazione Territoriale, Facoltà di Architettura, Università di Palermo. 1981, 1984
- La Rosa, S. e. V. Li Donni, *Occupazione giovanile e mercato del lavoro in Sicilia*. Vittorietti Editore, Palermo 1978
- Lo Cascio, G. et al. *L'immaginario mafioso, La rappresentazione sociale della mafia*. Edizioni Dedalo, Bari 1986
- Maddo, A. et al. (a cura di) *Testo integrale della relazione della Commissione parlamentare d'inchiesta sul fenomeno mafia*. Cooperative Scrittori, Roma 1973
- Magistratura Democratica, *Mafia e istituzioni*. Casa del Libro Editrice, Reggio Calabria 1981
- Majonara, M. I quartieri nella storia e negli studi socio-urbanistici. Centro Studi "Città di Palermo". *Palermo e i suoi quartieri*. Palermo 1980
- Marselli, G. A. Per una diversa politica del territorio; i rapporti città-campagna. Leone, U. (a cura di) *Vecchi e nuovi termini della questione meridionale. Scritti in ricordo di Francesco Compagna*. Camera di commercio, industria, artigianato e agricoltura di Napoli, 1986
- Masini, V. *Sociologia di Sagunto. Morfologia di un sottosistema di gruppi d'interesse: uno studio su Palermo*. Franco Angeli, Milano 1984
- Masini, V. *Palermo: quartieri e servizi*, Centro studi e iniziative "Una città per l'uomo", Palermo 1985
- Mazzanuto, A. Urbanistica e società civile. Caldo, C. e V. Guarrasi *Qualità della vita e spazi urbani*. Le edizioni dell'art. 9, Palermo 1983
- Mingione, E. *Urbanizzazione, classi sociali, lavoro informale. Saggi sul processo di urbanizzazione allo sviluppo economico, alla crisi attuale, alla ristrutturazione-decentramento industriale*. Franco Angeli, Milano 1983
- Milna, R. *Breve storia della mafia*. Editori Riuniti, Roma 1984
- Paci, M. *Mercato del lavoro e classi sociali in Italia*. Il Mulino, Bologna 1973

- Paci, M. *La struttura sociale italiana. Costanti storiche e trasformazioni recenti*. Il Mulino, Bologna 1982
- Paci, M. Il sistema di welfare italiano: tra tradizione clientelare e prospettive di riforma. Ascoli, U. (a cura di) *Welfare State all'italiana*. Laterza, Bari 1984
- Pantaleone, M. *Mafia e politica, 1943-1962. Le radici sociali della mafia e i suoi sviluppi più recenti*. Einaudi, Torino 1962
- Pantaleone, M. *Antimafia, occasione mancata*. Einaudi, Torino 1969
- Pavone, G. *Una ricerca sulla percezione di appartenenza a un quartiere fra i palermitani*. Centro Studi "Città di Palermo". *Palermo e i suoi quartieri*. Palermo 1980
- Piazzesi, G. e S. Bonsanti, *La storia di Roberto Calvi*. Longanesi, Milano 1984
- Raffaele, G. Temi e problemi nella letteratura sulla mafia. Di Bella, S. (a cura di) *Mafia e potere. Società civile, organizzazione mafiosa ed esercizio dei poteri nel Mezzogiorno contemporaneo*. Vol. I. Rubbettino, Severia M. (CZ) 1983
- Randazzo, S. B. *Sicilianità, subcultura, tradizioni, ellos e comportamenti, tendenzialità*. Edi Otes, Palermo 1985
- Renda, F. La mafia nel secondo dopoguerra: un'interpretazione storiografica. Di Bella, S. (a cura di) *Mafia e politica. Società civile, organizzazione mafiosa ed esercizio dei poteri nel Mezzogiorno contemporaneo*. Vol. II. Rubbettino, Severia M. (CZ) 1983
- Renda, F. *Storia della Sicilia dal 1860 al 1970*. Sellerio Editore, Palermo I. 1984, II. 1985
- Rochefort, R. *Le travaux en Sicile*. P. U. F., Paris 1961
- Romano, S. F. *Storia della mafia*. Sugar Editore, Milano 1963
- "Società, cultura e mafia: aspetti e problemi" Numero speciale di *Incontri Meridionali, Rivista di Storia e Cultura*. Terza serie, Anno V. No. 3, 1985
- Schneider, J. and P. Schneider, *Culture and Political Economy in Western Sicily*. Academic Press, London 1976
- Spanninato, A. Immagini della grande imprenditoria siciliana. Centorrio, M. ed E. Sgroi (a cura di) *Economia e potere mafioso in Sicilia*. Giuffrè, Milano 1984
- Sgroi, E. I servizi sociali. Galasso, A (a cura di) *Progetto speciale per l'area metropolitana di Palermo. Studio socio-economico*. Cassa per il Mezzogiorno, 1980
- Sorgi, O. Circuiti culturali e classi sociali nel contesto urbano. Caldo, C. e V. Guarrasi *Qualità della vita e spazi urbani*. Le edizioni dell'art. 9, Palermo 1983
- Stajano, C. (a cura di) *Mafia. L'atto d'accusa dei giudici di Palermo*. Editori Riuniti, Roma 1986

Sylos Labini, P. (Inchiesta diretta da) *Problemi dell'economia siciliana*. Feltrinelli, Milano 1966

Sylos Labini, P. *Le classi sociali negli anni '80*. Laterza, Bari 1986

竹内啓一「イタリアにおける『南部問題』の起源と問題の展開——イタリア南部研究のための序説——」『経済地理学年報』第七巻 一九六一年

竹内啓一「ブリガントッジョ考——イタリア南部の山賊について」『イタリア学会誌』第一号 一九六二年

竹内啓一「南伊社会と南部問題——社会地理学の一視点——」『一橋論叢』第五八巻 第一号 一九六七年

竹内啓一「マフィア——栄誉ある結社の末路」『伝統と現代』一九七一年九号

竹内啓一「社会地理学と第三世界——都市の場合——」『一橋論叢』第七五巻 第二号 一九七六年

竹内啓一「イタリア『南部問題』の時代区分についての覚え書き」鴨沢敏編『現代世界の地域政策の展開——経済地域構造と地域政策の経済地理学的国際比較研究——』昭和五

三年度文部省科学研究費(総合研究A)報告書 一九七九年

竹山博英『シチリア 神々とマフィアの島』朝日新聞社 一九八五年

Taia, I. *Aleune note sull'evoluzione del sistema urbano del Mezzogiorno*. Leone, U. (a cura di) *Vecchi e nuovi*

*temini della questione meridionale. Scritti in ricordo di Francesco Compagna*. Camera di Commercio, Industria, artigianato e agricoltura di Napoli, 1984

Tedeschi, M. La chiesa e la questione della mafia in Calabria e in Sicilia nel secondo dopoguerra. Di Bella, S. (a cura di) *Mafia e potere. Società civile, organizzazione mafiosa ed esercizio dei poteri nel Mezzogiorno contemporaneo*. Vol. II. Rubbettino, Severia M. (CZ)

1983

Trione, V. *Storia, mafia e costume in Sicilia*. Edizioni del Milione, Milano 1964

Vittorini, M. *Urbanizzazione costiera e politica di sviluppo. Urbanistica*. n. 58 1971

〔補記〕本稿は、昭和六一年度の文部省科学研究費補助金(海外学術調査)による調査「地中海地域における沿岸都市周縁部の社会・文化の動態の比較研究」(課題番号六一〇四一〇三一 研究代表者竹内啓一)による研究成果の一部である。また、昭和六〇年九月から一〇月にかけて一橋

大学社会工科学術奨励金からの援助で、フランス、イタリアに都市計画の策定過程に関する資料蒐集に赴き、本稿の主題に関連するデータを集めることができた。ここに心から謝意を表明する。

(一橋大学教授)